

令和2年度 教育活動関係者評価

藤枝順心高等学校附属幼稚園

1 幼稚園の教育目標

教育目標 豊かな心とたくましい体を持った子

- ・子ども理解に努め、一人一人の発達特性や個に応じた指導をする。
- ・遊びをひろげ、深める環境を構成する。
- ・社会の変化や地域の要請に応え、保護者との連携を密にして保育を進める。
- ・小学校教育との結びつきを図るため、地域の小学校との連携を進める。

重点目標 思いやりのある子 がんばりのきく子 挨拶のできる子

- ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を送ろうとする態度を育てる。
- ・他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人と関わり合う力を養う。
- ・自分の思いを言葉で表現しようとしたり相手の話す言葉を聞こうとしたりする態度を育て、言葉に対する感覚や言葉による表現力を養う。
- ・感じたことや考えた事を様々な方法で表現する事により、豊かな感性や表現力を養う。
- ・周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ち、知ろうとしたりかかわりを深めたりしようとする態度を養う。
- ・教員が、一人一人の幼児との間に愛情と信頼の関係を築くとともに、幼児の心が開く接し方に心がけ、幼児の伸びようと姿を支えていく。

2 評価項目の達成及び取組状況（評価 A：十分達成 80%以上 B：達成 79～60% C：成果がやや足りない 59～40% D：不十分 39%以下）

(1) 指導領域の評価

評価の項目と主な観点	職員評価		評価の理由(成果や課題・改善策)	関係者評価
① 健康安全・体力の向上 ・朝の持久走や運動遊び等による体力や運動能力の向上 ・健康で安全な生活をしようとする態度や習慣 ・様々な食べ物に興味を持ち進んで食べようとする意欲	A	87.4%	○体力の向上は、重点目標でもあり職員の意識も高い。昨年度は下がったが、本年度は 2.6 ポイント上がった。コロナ禍であっても、朝のマラソン体操の取り組みができたこと、また学年やクラスで大型遊具を利用した遊びができたことが要因と考える。保護者の評価も 91%と高評価であった。 ▽給食指導では「給食カード」など担当が工夫しているが、個人差が大きい。	A
② 人間関係・自立心 ・ものごとの善悪や決まりの大切さに気付いて行動する態度 ・友達の気持ちを大切にしようとする態度 ・人とかかわる楽しさを感じ、一緒にやろうとする態度	A	92.3%	○昨年度より 4.8 ポイント上がった。様々な行事を通して子ども達は協力することや育てていることが人間関係の向上や思いやりの心の育成に役立っている。担任は、意図的に運動会や発表会などを通して、子ども達が主体的になって問題を解決するよう仕掛けている。 ○運動会が終わった後に縦割りでのマーチングの取り組みをしていることは思いやりや教え合いなどで大変効果的である。	A
③ 言葉 ・自分の思いを言葉で伝えようとする態度と力 ・話を聞こうとする意欲や態度 ・読み聞かせを楽しむ	A	87.4%	○昨年度に比較し 4.2 ポイント上がった。本園が力を入れている「聞く」ことが着実に成果となって表れていることが大きく評価された。また、行事を通して子ども同士で意見を出し合い考えさせたりしていることも評価された。保護者からの評価も 95%と高かった。 ▽英語については、行事に追われ、なかなか取り組めなかったと反省も上がっている。また、サイバードリームの機械が 2 台しかなく、13 クラスで取り組むとなると、使用が重複してしまう。	A

<p>④ 表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に興味や関心を持って取り組み心を動かされる姿</li> <li>・自分の思いを自分の方法で楽しみながら表現する喜び</li> </ul>	A	92.3%	<p>○昨年度より 3.1 ポイント上がった。職員は発表会や絵画の制作、クラス活動などで子ども達が豊かに表現できるようになってきていると手ごたえを感じていることがわかる。保護者の評価も 97%と高い。とくに発表会や運動会への評価が大変高かった。</p>	A
<p>⑤ 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内外の動植物に興味関心を持って接しようとする態度</li> <li>・野菜や花の成長を喜び、世話をしようとする態度</li> <li>・環境とかかわって遊んだり遊びをつなげたりする態度</li> </ul>	A	83.7%	<p>○昨年度より 4.9 ポイント上がった。例年課題にあがる項目であるが、限られた条件のなかでも工夫しながら取り組み徐々にではあるが改善されつつあると思われる。子ども達は、担任の工夫した声掛けにより、学園内にある花、植物、虫、鳥など自然に目を向けることができた。 ▽夏の天候不順の影響で野菜が不作であったことは残念だった。また、幼稚園から畑が離れているため、なかなか見に行くことができないことも課題である。</p>	A

(2) 園の重点目標や活動についての評価

<p>1 がんばりのきく子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困難なことがあっても最後までやり遂げようとする姿</li> </ul>	A	93.8%	<p>○昨年度より 8 ポイントと大幅に上がった。要因は日常の保育や行事において苦手なことであっても挑戦する姿が多く見られたことで担任は手ごたえを感じていた。保護者の評価も 91%と高いものであった。 ○課内の体操教室が充実し、難しいことに挑戦させたりしている。 ▽各学年ごとに「逆上がりができる」「縄跳び〇回」「マラソン〇周」など目標を立て挑戦させることも考えていきたい。</p>	A
<p>2 思いやりのある子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のことを気遣い友達の気持ちを考えて行動する姿</li> </ul>	A	90.0%	<p>○昨年度とほぼ同じであった。ひよこ組（2歳児&amp;満3歳児）を含めて4学年が生活しているため、自由遊びの時間など異年齢が関わる時間が多くある。そのため、自分より小さな子に対して優しくする姿が多く見られるようになってきている。 ○保護者の評価も昨年度より 9 ポイント上がった。98%が思いやりの心を育てる指導をしていると捉えている。</p>	A
<p>3 あいさつのできる子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から挨拶したり挨拶されたら挨拶を返したりする姿</li> </ul>	A	86.2%	<p>○昨年度より 3.1 ポイント上がった。あいさつのできる子どもはだいぶ増えてきているが、個人差が大きい。本年度は担任の工夫したクラスでは大きく改善されたため、来年度はその方法を浸透させてみたい。 ○保護者の評価は昨年度と同じであった。挨拶は保護者の協力も不可欠である。今後も家庭と連携しながら指導を進めていくことが大切である。</p>	A
<p>4 行事の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な行事での園児の姿、行事の計画・運営等の評価</li> </ul>	A	94.1%	<p>○昨年度よりほぼ同じであった。 ○先生たちは、コロナ禍にありながらも行事が持つ教育的価値を失うことのないよう、感染予防を工夫しながら取り組んできたことを自己評価している。 ○多くの保護者が、コロナ禍の中でもできる限り行事を実施してくれたことに感謝しているという感想が寄せられた。</p>	A

<p>5 個に応じた指導 ・園児の理解に努めそれに応じた指導ができたか</p>	A	87.7%	<p>○昨年度より 2.5 ポイント上がった。常に行っていることであるが、様々な子どもの情報は朝礼、終礼、全体会できめ細かく報告し、職員間で情報共有をし、一人一人の子どもの支援に生かしている。また、子どもを名前と呼ぶことが一人一人を大切にすることであると認識している。 ○保護者の評価 94%という高い評価を得たことは、「わが子を大切にしてもらっている」という実感の表れと思われる。</p>	A
<p>6 地域の施設や人材、自然を生かした指導 ・地域理解に努め地域を生かす指導ができたか</p>	B	76.8%	<p>○昨年度より 6.8 ポイント上がった。本園の課題であり、園外保育の不足を反省する先生の声が多くあった。本園は行事が多いため、なかなか園外保育に出ることができない。そうした中でも、ひよこ組や年少では工夫をしながら保育することができたように思われる。 ○保護者の評価 94%と高く、限られた環境の中でも工夫した保育をしていることを高く評価している。</p>	B
<p>7 保護者への対応や連携 ・保護者への連絡や対応、連携が適切であったか。</p>	A	90.8%	<p>○昨年度より 1.6 ポイント上がった。本園は保護者への対応は明るくかつ丁寧にしようと共通理解をしている。担任はできる限り丁寧に保護者に連絡し、連携を図っている。しかし、要求や批判の多い一部保護者への対応に悩んでいる面も見られる。担任が委縮しないよう保護者対応の研修も考える必要がある。 ○保護者の評価も 94%と高い。「子どもの様子」「保育の内容」などを知りたいと要望が寄せられているので検討していきたい。</p>	A
<p>8 園内研究や研修の推進 ・指導力や保護者への対応力向上等の研修ができたか。</p>	B	79.0%	<p>▽昨年度と同じであった。本年度はコロナ禍であり、外部の各種研修がほとんど中止となってしまったため、学年を中心とした園内研修しかできなかった。自己研修を積極的に進めるかは個人差がある。若手保育者が増えているので、園の保育力向上のためにも研修を推進していきたい。 ○南ブロック研修には若手4人を参加させ、保育力の向上を図った。</p>	B
<p>9 校務分掌の適切さ ・仕事量と人数が適切で効果的な分掌となっていたか。</p>	A	80.0%	<p>▽昨年より 3.57 ポイント下がった。その原因のひとつに、コロナへの対応があげられる。担任の業務は多く、持ち帰りも頻繁であるうえ、コロナ対応があったため係はかなり苦労していた。全員で補完し合うよう協力したつもりであるが負担感が増したと感じている。 ▽保育、行事の精選や見直しを進めていく必要がある。</p>	A
<p>10 魅力ある園づくり ・就園先として選択される園づくり</p>	A	92.0%	<p>○昨年度より 1.6 ポイント上がった。子どもにとって楽しい活動や行事を提供できていると職員は実感している。 ○ひよこ(2歳&amp;満3歳保育)、運動、絵画造形、英語、運動会、発表会、課外保育、預かり保育が充実し、選ばれる幼稚園ができつつある。</p>	A

3 本年度の重点 「笑顔あふれる幼稚園」

1 笑顔あふれる保育や行事を提供できたか	A	95.6%	○昨年度より 1.8 ポイント上がった。笑顔あふれる幼稚園 (Smile Smile Smile) を合言葉に保育を進めてきたこと浸透できたことが大きい。子どもが遊びきる保育を提供しようとしている担任の成果だと思われる。職員もそれを実感できた一年であった。保護者の評価は 99%と非常に高い。	A
2 子どもは笑顔で園生活を送っているか	A	96.3%	○昨年度とほぼ同じであった。担任や保護者が笑顔でいることが、子どもも笑顔でいられると感じている。またその逆もある。保護者の評価は 99%と高い。	A
3 教職員は笑顔で子どもや保護者に接しているか	A	98.5%	○昨年度より 2.3 ポイント上がった。他園から転園してきた保護者から「先生方が」いつも笑顔で、その上、子どもの名前を覚えてくれているのがうれしい」と評価された。他にも本園の教職員の子どもや保護者への接し方が素晴らしいと感想をいただいた。保護者の評価は 99%と高い。	A

4 総合的な評価結果(太字は評価委員からの評価。細字は園内評価委員会の評価)

評 価	理 由
A	<p>○コロナ禍や難しい課題が多い中、対応に苦慮することも多いと思われるが、十分な保育や指導がなされていることが評価から伺える。それが少子化のなかであっても、園児の増加につながっている要因と思う。</p> <p>○教職員と保護者の評価の差がないということは、両者が同じ思いで本園の保育を受け止めている証拠である。</p> <p>○感染予防をとりながらリスクを背負っても例年とほぼ同じように行事や保育活動をしてくれたことに感謝。</p> <p>○子どもに聞く姿勢などをしっかり指導してくれ、成長させてくれたと実感している。</p> <p>○数年前より現在の先生は笑顔で朗らかで雰囲気よくなっている。</p> <p>○▽保護者の意見で、肯定的なものは「自信」に変えて、否定的なものは「できそうなものから工夫改善」をしたい。</p> <p>○▽自粛期間中であっても預かり保育を実施してくれたことは、働く親にとってはありがたかった。外遊びをもっと行ってほしいという意見もあるため改善を求めたい。</p> <p>▽園外保育が不足という反省が例年出されるのは計画に問題があると受け止めたい。発想の転換を求めたい。</p> <p>○全体的に教職員、保護者の評価ともに昨年度より大きく向上した。コロナ禍であっても、試行錯誤しながらもできる限り通常に近い保育をしてきたこと、安心安全な保育を提供できたことへの評価だと考える。この高い評価は、来年度の入園者が大幅に増加したことへも数字として表れている。</p> <p>○昨年度に引き続き「笑顔あふれる幼稚園」を目指して Smile Smile Smile を合言葉に保育を進めてきた。この合言葉は職員にはほぼ定着し、自信を持って取り組んでいると考える。保護者からの評価も非常に高く、幼稚園教育目標とは別に、このスローガンは大切にしていきたいと考えている。</p> <p>○園児獲得について大きな成果をあげた一年であった。それは教職員全員の 4 年間の努力改善が実を結んだものと考えられる。これで満足することなく、今後も安心安全な保育の提供、質の高い保育の提供、充実した環境の提供、園児・保護者への丁寧で心のこもった対応などに務めていかなければならない。同時に、各学年の適正園児数についても考えたい。</p>